

◆漁業士活用育成事業

クロマグロ釣漁具・漁法の視察交流報告

宮古支庁農林水産整備課 長嶺巖

日 時：平成20年10月16日～18日

場 所：長崎県壱岐市勝本町漁業協同組合

参加者：伊良波淳世、砂川有造

1 10月17日 10時00分

長崎県壱岐水産業普及指導センターで、原洋一所長から壱岐水産業の概要について説明。

壱岐は九州西部の玄界灘に位置し、南北17km東西15km、約139km²の平坦な島である。

島内漁業の主体は、小型漁船によるイカ類、ブリ類、マグロ類、マダイ等の一本釣り漁業で、他に、刺し網漁業や、延縄、採貝藻、定置網漁業が行われ、湾内の静穏域では真珠、魚類等の養殖漁業が営まれている。

平成17年の漁業経営体数は、1,125経営体で、生産量は8,607トン、海面養殖生産量は魚類養殖721トン、介藻類20トン、真珠931kgである。

2 10月17日午後1時30分

視察先の勝本町漁協 大久保 忠参事から漁協の概要説明を受ける。別添（資料1）を参照。

3 視察交流の概要

午後2時から漁協会議室で青年漁業士住吉正

彦、西正寛氏を交えてクロマグロ漁法等の技術研修と意見交換を行った。

(1) 曳き縄

疑似餌針をつけた糸を数本曳きながら船を走らせてマグロを釣る漁法。

(2) たて縄

浮玉を付け、1本に多くても5本の枝縄（針）を付け、1船で3本ほど流す。

マグロが掛かったかどうかは浮き球の動きをみて判断する。

(3) まき落とし

船を錨で固定し、釣針にイワシ（丸のまま又は切り身）を餌にして撒き餌をしながらマグロを寄せて釣る。

1m以上の釣り竿は使用禁止。通常、大きくても数十kgだが、時々100kgを超えるマグロも釣れる。

(4) 一本釣り

竿+リール（電動・手動）で釣る。錨での船固定は禁止。平成15年に漁業者2～3名が電動リールを導入、平成16年には約50隻が電動リールを装備するようになった。

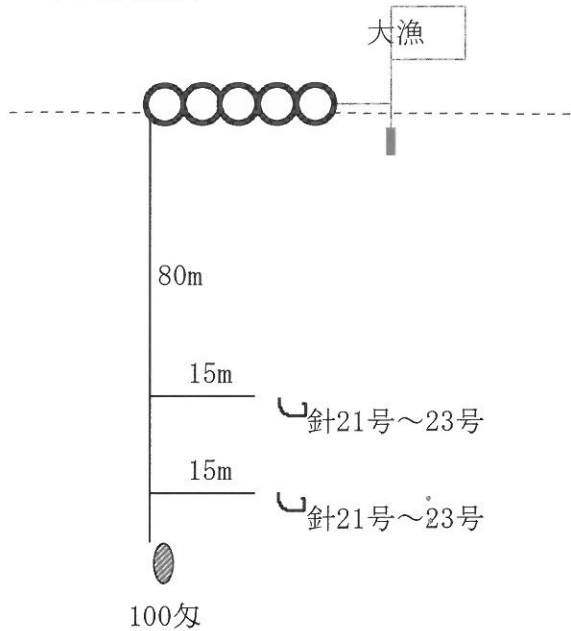
最近では、電動よりも手動の方が効率が良いとのことであった。電動リール購入は壱岐市から補助がある。

クロマグロ漁法について

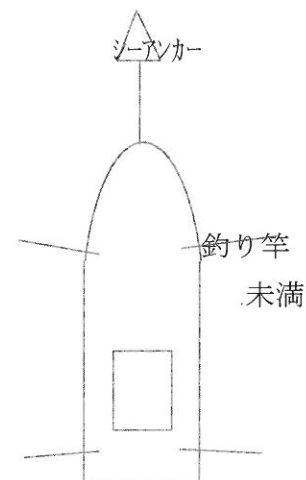
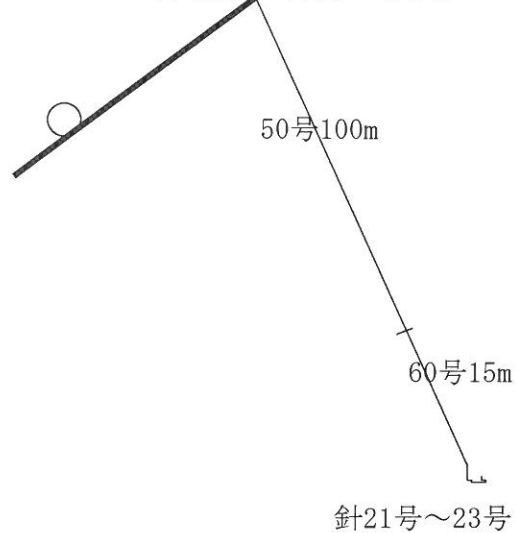
漁法	漁期	漁獲サイズ	備考
曳き縄	冬期	2～3kg（ヨコワ）	約10隻程度操業
たて縄	11月～3月	10～20kg（シビ）	約50隻程度操業
まき落とし	5月～9月	10kg前後が主体 (20～60kgも釣れる)	盛漁期は5～6月。状況によって漁期の延長あり。
一本釣り	11月～3月	中大型	平成16年から電動リール使用者が増えている。

(5) 漁具構成

たて縄漁具



一本釣漁具 (電動・手動リール)



(6) 操業方法

壱岐島周辺の半径3マイルの狭い瀬漁場に約100隻の漁船がクロマグロ釣漁業を営んでいる。過密状態で、壱岐島にある5漁協で操業方法のルールを決めている。

漁場までは、勝本漁港から30分。5月～10月15日まで瀬の潮上から順番に横に並んでアンカーを入れて一本釣りで操業する。50kg以上のマグロが掛かると、錨綱に浮きを付けて船を切り離しマグロを取り込む。

操業時間は、夜間12時に出航、イカを釣って活かしておき、夜明けから日没まで操業する。

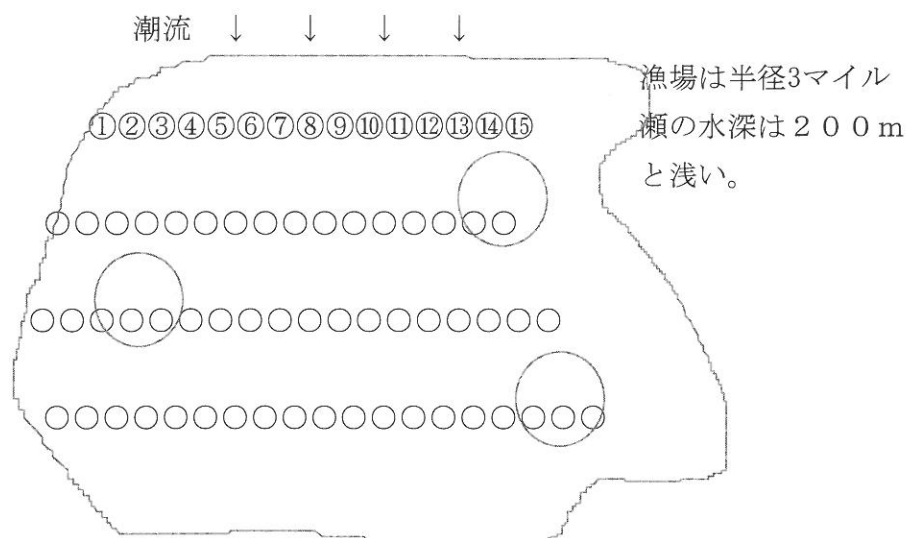
夜間のイカ釣りは3kwの集魚灯を3灯=9kwと漁業調整規則で決めてある。水温が上がる8月～10月まではクロマグロは少ない。

釣餌は1年中生きイカを使用するが、春先はトビウオを使う漁船もある。

冬場の夜間操業はシーアンカーを入れて、前と後ろに2本づ竿を入れて、操業する。

瀬に入っていない5トン未満の小型漁船は、たて縄漁法（旗流し）でクロマグロを狙う船が多い。

○ 壱岐島西方 大瀬漁場での操業図



(7) 鮮度保持について

伊良部漁協指導漁業士伊良波淳世から伊良部におけるキハダマグロの鮮度保持について実績発表大会の資料をもとに報告。

勝本町漁協においては、平成15年度にシメシメマグロの鮮度保持の講習会を行って、マットの上に魚体をおいて、血抜き、殺し、エラ抜きの一連の処理を行い、角氷で海水を冷却した魚槽に入れて漁港に入港し、漁協は検量後マグロを(生氷コンテナ)に入れて翌日まで保冷する。50kg以上の本マグロは東京の築地市場へ木箱(ビニールシート掛け)に入れて福岡空港から空輸している。50kg未満は福岡魚市場へコンテナに入れてフェリーで運んでセリにかける。

50kg以上のクロマグロは、1本を大事にするため漁獲するとすぐに船上処理して、漁港に入港する。

大型のクロマグロは水温の低下する10月下旬から3月までの冬場に水揚げが集中するため年に1本ほど芯(脊髓部)にヤケが出る程度。

東京築地市場の10月にあがったクロマグロの価格は2,000円~4,000円程度でそんなに高くないとの説明であった。

マグロを釣っている漁業者の年間水揚げ金額は最高が20,000千円で平均15,000千円程度

4 漁業士交流会

10月17日の夜7時から郷の浦市内の居酒屋で壱岐島地区漁業士会と交流会を行った。

壱岐島地区漁業士14名中6名が参加したが、クロマグロ釣り漁業士の参加はなかった。

5 研修の感想

壱岐島は人口3万人の離島であるが福岡から近いこともあり魏志倭人伝の一支国の王都として注目を集める「辻が原遺跡」などの史跡・遺跡が多く残り、観光客が年間60万人程訪れる歴史のある島であった。

①今回のクロマグロ釣漁法の視察研修では、事前の打ち合わせが悪かったのか、漁船に乗船しての現地研修が出来ず残念であった。

②クロマグロの漁場の水深が200mと浅く取込時間が30分以内であること等、宮古島の漁場とは条件が違うと感じた。

③浮き流し漁法はクロマグロ釣には適していると思う。今後は、参考にして漁具を制作し試験を行いたい。

④壱岐島は高級魚主体に漁獲して福岡魚市場や東京築地市場に出荷しているせいか、地元のレストランでも、居酒屋でもサンマやサバなどを多く出していた。